

「住用中学校の史跡・自然探索の取組」

1. 学校名	奄美市立住用中学校
2. 学年・人数	1年生 1人
3. 日時・場所	(1) 学習会等の日時・場所 住用地区集団宿泊学習 5月29日(水)・世界自然遺産センター, マングローブ原生林, 三太郎峠 5月30日(木)・フナンギョの滝, モダマ自生地, 青久史跡
4. 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	(1) 名称・時代 ・ 三太郎峠(さんたろうとうげ) ・ 青久集落(あおくしゅうらく) ・ むちゃかなの碑 ・ モダマ自生地 ・ フナンギョの滝 (2) 特徴等 ・ 三太郎峠: 夜になるとアマミシカワガエル, アマミノクロウサギなど天然記念物の姿を観察できる。 ・ 青久集落の玉石垣: 復帰後, 奄美群島復興事業第一号として実施された事業である。 ・ むちゃかなの碑: 江戸時代末期, 喜界島出身の女性が美しい容姿を妬まれ海に突き落とされ青久集落に流れついた亡骸を葬った碑がある。 ・ モダマ自生地: 奄美大島で唯一ここだけにモダマが自生している。 ・ フナンギョの滝: 川内集落の奥にある落差のある滝。
5. 活用の取組において地域との連携や工夫した点等	1年生宿泊学習の一環として地域の自然や史跡と関わる活動を総合的な学習の時間の時間を用いて計画した。1日目の午前に世界自然遺産センターにて野生生物保護功労者表彰・環境大臣賞を受賞した自然写真家の常田守氏を講師に迎え住用地区の自然について概要を学び, 午後にマングローブをカヌーで散策した。夜はナイトツアーで三太郎峠に住む貴重な生物の観察を行った。2日目は奄美市文化財審議員の山下茂一氏を講師としフナンギョの滝, モダマ自生地, 青久史跡の散策を行った。
6. 取組の様子(研究発表等)	 マングローブ散策  フナンギョの滝
7. 感想・意見 (参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	【生徒】 ・ 青久の石垣は戦後日本で最初に整備された事業だと聞き, 歴史を感じました。 【地域】 ・ 奄美の自然が子どもたちにとって, 身近で誇りあるものになるように, 子どもたちと接する我々が, 温かく導いていきたい。 【教員】 ・ ガイドの方のサポートにより, 安心して山道を進むことができた。貴重な植物や生物が息づいている姿を目の当たりにすることができて子どもたちも郷土に対する関心や思い入れが深まったと思う。